

# 交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2018年6月15日

No.19

2018年度 夏季手当妥結

# 1.73カ月で妥結

(基準内賃金×1.65カ月+0.08カ月)

2018年度 夏季手当交渉最終報告

2018年度夏季手当交渉は申し入れ以降、4回の交渉と折衝を含め、職場で闘う組合員の想いを背景に、これまでの努力と苦勞に一切応えようとしない会社の頑なな姿勢をただし、要求の実現にむけた闘いを展開してきました。

本日23時00分より夏季手当の最終交渉に臨み、席上会社は基準内賃金の1.73カ月分(基準内賃金×1.65カ月+0.08カ月)とする回答を示しました。

回答に対し中央本部は①会社は昨年度2年連続黒字を計上し、過去最高益を計上する中で示された回答は納得できるものではない。組合員の想いとは大きな開きがあるが、JR貨物における責任組合としての責任において、ここに妥結することとする。②一方で真摯に議論する我々に対して、外野から誹謗中傷が繰り返されている。会社として毅然とした対応を行なうこと。③会社としてこれまで期末手当での上積みや、福利厚生などで黒字の還元を行なったことをもって「社員に報いている」としているが、その想いは組合員には届いていない。④職場で奮闘するJR貨物労組組合員の声に耳を傾けること。⑤企業は人なりと言うが、職場で日々汗する組合員や組合員を組織するJR貨物労組を足蹴にして、JR貨物の健全な発展はない。我々は労使協議に真摯に対応してきた。もし信義誠実の原則を踏みにじる行為や言動があれば、労働組合として毅然とした対応をせざるをえないことを指摘しました。

その上で①昨年並みとしていた会社の頑なな考え方を改めさせ、上積みをかち取ったこと。②回答書にある人事賃金制度改正について、回答書にはそぐわないと指摘し、人事賃金制度については別途、労使協議を行なうことを確認し、中央本部は夏季手当について妥結することとしました。

今次夏季手当獲得闘争において職場からの創意工夫した闘いによって、本部交渉を全力で支えていただいた全ての組合員に対し、改めて感謝を申し上げます。今会社は事業計画の目標の必達を目指していますが、職場では要員不足や老朽化した設備の更新など、早急に解決すべき課題は山積しています。全組合員が結集してこの間の闘いを総括し、組合員の職場と仕事と生活を守るために次なる闘いにむけて取り組んでいこうではありませんか。中央本部はその最先頭で闘うことを明らかにし、夏季手当交渉の最終報告とします。

以 上